

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|-------------------|------------|
| 事業所番号 | 4390101402 | |
| 法人名 | 医療法人室原会 | |
| 事業所名 | グループホームきくなん | |
| 所在地 | 熊本市北区鶴羽田3丁目11番15号 | |
| 自己評価作成日 | 平成29年7月4日 | 評価結果市町村報告日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | |
|-------|----------------|--|
| 評価機関名 | NPO法人 九州評価機構 | |
| 所在地 | 熊本市北区四方寄町426-4 | |
| 訪問調査日 | 平成29年8月8日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>事業所の理念、メッセージ「私たちは家族です」に基づき、その人らしさを大切に、居心地の良い場を提供すべくケアを行っています。また、ご家族とも密に連絡をとり、安心を提供出来るよう関係作りに努めています。また、体調面においては、隣接の連携病院で何かあれば早急に対応出来るよう体制を整えています。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>高台で閑静な住宅地の中、法人の医療機関に隣接したホームである。理念は法人全体で大切にされており、ケアの根幹とされているのが窺える。職員面談時には「入居者本位である」こと、「入居者に尊厳を持ち楽しく過ごして頂ける様に」等々、日々の業務へ向かう姿勢が職員に浸透し、実践されていることが伝わってきた。昼食時の支援でも、その場の穏やかな一時と食事の楽しさを職員の立ち位置や振る舞いを通して感じる事が出来る場づくりにケアの配慮が感じられ、質の高いケアを垣間見る事が出来るホームである。入居者の日常生活では自然な形で役割が出来ており掃除や調理・裁縫等、特技も活かされている。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所内には理念を掲示。また常にふり返れるよう、職員は名札にも理念を持参しており、ケアの実践につなげている。 | 理念である「私たちは家族です」を設立以来最も大切にした業務に取り組んでおり、職員のケアにも表れている。昨年度より理念の共有に特に力を入れており、運営推進会議や研修でも繰り返し伝えられている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の清掃活動や、ホーム菜園の収穫、消防訓練等を通し、馴染みの関係作りに努めている。また近隣からゴミ出し介助や重い物をかかえる手伝いなど徐々にお願ひされることが多くなってきた。 | 地域の清掃活動や各種活動の中で、近隣との関係継続に努めている。避難訓練時にも地域との連携もとれ、地域の一員としての生活が営まれている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症サポートリーダー取得に際しての実習受入も行っており、支援方法など地域から要請があればいつでも対応出来る。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 毎回多くの家族にも参加頂き、スライドや動画などで活動報告を行っており、意見や助言があれば実践に努めサービス向上につなげている。 | 運営推進会議には地域や行政の方々だけでなく、多くのご家族、また利用者本人の参加がみられる。活動報告等の他意見を頂く機会を設け、業務改善に活かす様取り組んでいる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議にささえりあより出席頂き、意見や助言を頂いている。また毎月介護相談員にも来所頂き意見交換を行っている。 | 運営推進会議には毎月参加を頂き、また市よりの介護相談員の来所もある。介護相談員による入居者との面談は、職員とは違う面で入居者の意向を得ることも有り、ケアに役立っている。 | 今年度は会議資料に理念が記載されており、改めて地域・入居者家族等へ事業所の考え方が伝わってきている様子が伝わってきました。 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての勉強会を行っており、スタッフが共通認識をもち、拘束のないケアを心がけている。 | 法人、事業所内研修でテーマを持ち学んでいる。また毎月事業所内で全職員参加での勉強会を行っており、職員の意識の統一にも力を入れている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会でケアをふり返る機会を設け、現状のケアはどうか話し合いをもち、虐待防止に努めている。 | | |

グループホームきくなん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護について勉強会を行っており、外部の研修も機会があれば参加するよう努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分に説明を行い、随時質問も受け、同意を頂いた上で契約書の締結や改定などを行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議や介護相談員面談など意見や要望を聞く機会を設け、改善点などがあれば、運営やケアに生かし対応するように努めている。 | 運営推進会議、日頃の面会、イベント等、入居者家族がホームを訪れる機会が多いため、意見や要望を出しやすい環境作りに努めている。また入居者は職員だけでなく介護相談員の面談も活用し意見・要望を聞く機会を設けケアに生かしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に1回、何かあれば随時カンファレンスを行い、必要時は早急に対応し、業務改善に反映させている。 | 毎月カンファレンス後に勉強会を行い、職員の意見を出す機会としている。また意見や提案が出た場合は必要に応じ随時検討を行い対応している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 等級制度を導入し、昇進や資格取得で昇給もある。また今後ISO取得に向け、職場環境、条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会参加やスキル表をもとに、自分自身の得手不得手を認識し、働きながらトレーニングしていくことに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修会やブロック会などに参加し、ネットワーク作りに努めている。相互訪問など行い、サービスの質の向上に努めたい。 | | |

グループホームきくなん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前に本人や家族と面談し、ケアマネージャーとも情報交換し、不安な点や要望を把握し、安心して生活して頂けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族とは来所ごと、または必要時など意見交換を蜜に行い、要望に添えるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 状況を把握し必要としている支援を見極め、調整を行いながら、その時のニーズにあわせた対応が出来るよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 畑仕事など知らない方法などは教えてもらい、また、皿洗いや皿拭き、ゴミ捨てなど役割担当も決まっており、協力し合い日々を送っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 行事参加はもとより、利用者様に変化がある際には必ず伝え、家族の助けが必要な時には協力して頂き、つながりを大切にするよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会・外泊・外出は自由にして頂いており、希望があれば本人馴染みの場所に行ったり支援に努めている。訪問カットの際も毎回同じ人に来て頂いている。 | 協力頂ける家族も多く、面会や外出もよく見られる。日頃、入居者それぞれの意向により買い物等の支援も行っており、入居後の生活の中で新たな馴染みの関係も出来てきている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士の関係を把握し、席の位置を考慮している。また声かけを行い、一緒にお話するなど孤立しないよう努めている。 | | |

グループホームきくなん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去された利用者様のもとへ、馴染みの利用者様と面会に出かけたり、見舞いに行ったり関係性を大切にしている。また、相談があればいつでも対応出来る体制を整えている。 | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入浴時や日々の関わりの中で、1対1でお話する時間をもち、本人の思いなど表出して頂けるよう努めており、ご家族とも相談し本人本位に検討している。 | 日々の生活の中での寄り添い対話する時間をもち、思いを汲み取ることに努めている。また職員に対してだけでなく、市の介護相談員や家族からも情報を得、入居者本位のケアを行っている。 | 入居者の生活歴や日頃の活動から得意なこと、興味があること、日頃の意向の把握が出来ていました。職員の「急かすことなく」の姿勢を是非今後も継続してください。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人との会話や入居前のケアマネージャーなど、関係者から情報を得て、本人の背景を把握し、知人が面会に来られた際にもお話をし、細かな情報を収集し把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日、状態観察を行い記録や申し送りノートを利用し、全職員が共通の認識のもと現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 利用者様、ご家族の思いや意向を聞き、それに基づきケアのあり方を考えると共に、それぞれの受け持ち担当職員と共に、モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。 | 職員は担当制ではあるが全職員が意見を述べ気づきを伝える場を持つ。それぞれ職員の役割りによる流れが確立されており、家族との話し合いのもと、状況に応じ現状に即した介護計画の作成・見直しを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日個人の経過を記録し、各チェック表や申し送りがあればそれにも記録している。全職員が把握できるようにし、介護計画見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様やご家族の要望時、また職員が必要と判断した場合は、訪問マッサージや訪問歯科など外部のサービスも柔軟に対応するよう取り組んでいる。 | | |

グループホームきくなん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域清掃、近隣保育園の行事時の訪問、ボランティア慰問による交流など、利用者様が地域の中で力を発揮し、施設外の方と交流することで楽しみを感じて頂けるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診や通院は本人や家族の希望に応じ対応している。必要時は連携病院以外でも連絡をし、情報交換を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。 | 入居前のかかりつけ医を基本とするが、現状は法人の医療機関希望が多く、その場合は通院介助も行う。体調急変の場合は往診もあり家族の安心を得ている。必要に応じた専門医受診の場合は家族による通院もある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常勤職員として看護職員を1名配置、また連携病院の看護師とも連携をとり、必要時は受診や往診などの対応が図れるよう体制を整え支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 施設長が母体病院の医師であり、病院関係者とも常に連携がとれている。また施設長指揮のもと、他病院への入院も円滑に行っており、関係作りは出来ている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看取り、終末期に関する方針を定めており、契約時に説明を行い同意を得ている。その場面、時期に近づいたら法人の医療機関や家族と連携をとりながらチーム支援に取り組みたい。 | 看取り・終末期についてのホームの姿勢は契約時及び必要となった時期に説明を行い同意を得ているが、現状では医療を伴うケースが多く入院となる場合が多い。法人の医療機関も併設であるため、支援の体制は整っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルを分りやすく図や写真を用いて作成しており、職員への周知を徹底している。ホームの勉強会に加え、連携病院で救急蘇生やAED使用の実技指導を受け実践力を身につけている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災、地震、水害時の対応マニュアルを作成し、非常時の手順を熟知している。また火災に関しては年2回、昼間・夜間想定訓練を交互に行い、利用者様や地域の方、母体病院職員にも参加頂き、救助方法や誘導の情報共有に努めている。 | 火災・地震・水害に対するマニュアルが整備・見直しされている。火災訓練では職員だけでなく、地域や法人職員との連携による実際の動きを確認している。立地状況を考え、近年土砂崩れ想定訓練も追加している。 | |

グループホームきくなん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇や権利擁護にいて日頃のケアの再確認や学機会を持ち、利用者様の尊厳に十分配慮することに努めている。 | 職員の日常業務では「尊厳を持ちながら楽しく過ごせる様に」「入居者一人ひとりへの個別対応が大事である」との考えが浸透しており、日頃の対応に表れている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 各利用者様の日常生活のペースに合わせ、居室でゆっくりする時間を設けたり、その方にあった個別対応に努めている。また居室でゆっくりお話ししたり傾聴に努め、利用者様が自己決定出来る雰囲気作りを心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 各利用者様のその時の状況に配慮し、柔軟な対応を行っている。希望や訴えがあれば、その思いに添った支援を心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人と相談し希望にてカットや毛染めなど対応を行っている。自由に化粧されたり、洋服も本人が選ばれたものを着ておられる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事は法人の病院から配色されている。セレクトメニューの日もあり、利用者様が食事を楽しんで頂けるよう配慮している。また、下膳はご自分で出来る方はして頂いており、皿拭きや皿洗い等は役割分担が定着しており、一緒に行っている。 | 食事は法人からの配食とホームの手作り日とがある。食事の準備や下膳、後片付けは利用者と共に行われ、自然な形で役割が見られる。食事中は職員の見守りの中、入居者同士の会話が繋がれ、良いコミュニケーションの場となっている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士によりバランスのとれた食事を提供出来ている。チェック表を用い、食事量や水分量の把握が出来ている。水分摂取が少ない方は、ゼリーを提供したり、家族持込のものを食事に加えたり、個々に応じた支援を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後声かけし、自力で難しい方は職員が対応し口腔ケアを行っている。その方の習慣に応じ、義歯洗浄剤使用のつけ置き時間帯を考慮したり、訪問歯科利用など要望に応じた支援に努めている。 | | |

グループホームきくなん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | チェック表による排泄パターンの把握、声かけや誘導にて利用者様に合わせた支援を行っている。オムツ使用でも日中は布パンツへ変更し、自立に向けた支援を行っている。 | 排泄や水分量のチェック表を活用しながら、個々に応じた支援を行っている。日中は出来るだけトイレでの排泄や自立に向けた支援に取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎朝の牛乳・豆乳提供、家族の希望に応じてバナナや納豆などの提供を行っている。散歩や廊下歩行などの運動を取り入れ、自然排便を促すよう努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 隔日入浴にしているが、入浴のタイミングはその方のペースに合わせて支援している。外出や家族の希望などあり、時間帯は臨機応変に支援している。 | 隔日の入浴ではあるが、入居者の体調や予定や意向により支援を行っている。失禁等の場合は入浴日に関わらずシャワー等にて清潔保持に努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動を促し、生活リズムを整えて頂けるよう支援しているが、日中を通して自由にソファーや居室で休んだり休息をとって頂けるよう努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員は服薬ファイルと毎日のチェックにて内容把握出来ている。また、利用者様においても尋ねられたりした際には説明を行っている。症状の変化がある場合には医師や薬剤師に相談し対応に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者様各々の出来る事や好きな事を見極め、家事、裁縫、習字、塗り絵、散歩など役割や楽しみ事を把握しており、支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や買い物、ドライブなど戸外へのお出かけには配慮し支援に努めている。年に数回、お花見やこいのぼり見学、あじさい見学など家族にも呼びかけ、外出支援を行っている。外食や墓参り支援など要望があれば個別支援も心がけている。 | 入居者の状態等により以前より日常的な外出希望は減ってきているが、買い物や散歩等の支援を継続している。年間を通じ外出行事も多く計画され、家族からも好評を得ている。 | 年々全員での外出も難しい状況となり、また時間的配慮も今まで以上に必要な状況の様です。日当たりの良いホームの環境を活かし、外気を感じる時間を今後も継続して大切にされることに期待します。 |

グループホームきくなん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人や家族の希望により、数名の方がお金を所持しておられ、飴玉など本人の希望にて一緒に買い物に出かけたり支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人より希望があった場合は自由に電話でお話して頂けるよう対応している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 手作りカレンダーや壁新聞、夏には窓からグリーンカーテンを眺めつつ、手作りの作物を眺めて頂き、季節感を感じてもらえるよう工夫している。 | 共用空間には各所にソファやベンチが置かれ、入居者が思い思いに過ごすことができる。ホーム内は明るく、普段から入居者は共用スペースで共に時間を過ごすことも多い。入居者と共に行われる掃除も行き届いており、心地よい空間である。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファやウッドデッキにある椅子、廊下のベンチなど気の合った利用者様同士で自由に過ごして頂けるよう努めており、食事時の席の配置にもきを配り、思い思いに過ごせるよう配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 慣れ親しんだ物を持参して頂き、家具や使い慣れた布団や小物など、居室は自由に飾りつけて頂き、居心地よく過ごせるよう空間作りに努めている。 | ベッド以外は入居者の使い慣れた家具等が持ちこまれており、それぞれ、シンプルな部屋、趣味の手芸品が飾られた部屋と入居者の好みにより心地よく過ごせる様、また安全にも配慮された空間である。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各居室には花のイラストと名前表示、トイレ内部やドアにも表示をし、不安なく出来るだけ自立した生活が送れるよう努めている。 | | |

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームきくなん

作成日 平成 29 年 9 月 5 日

【目標達成計画】

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目 標 | 目標達成に向けた具体的な取組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|--------------------------------------|--------------------|--------------------------|------------|
| 1 | 23 | 職員の「急かすことなく」の姿勢を今後も継続を | 「急かさず待つ」の姿勢を常に心がける | 個別対応ケアを本人本位に検討 | 即日 |
| 2 | 49 | 日当たりの良いホームの環境を活かし、外気を感じる時間の継続を今後も大切に | 1日1回は外気を感じる時間を持つ | 1日1回は日光浴や窓を開け、風を感じる時間を持つ | 即日 |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。